

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 2 5 日

所属	商経学部	職名	教授	氏名	千葉 啓 司
研究課題	ICT の進展と複式簿記				
研究キーワード	ICT、複式簿記	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう	該当なし	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>当初計画していた ICT の進展と複式簿記については、日本簿記学会研究部会最終報告にまとめられた。</p> <p>当初計画にはなかったが、産業経理協会発刊の雑誌『産業経理』への掲載を依頼されたため、現在の会計基準における問題点を取り扱うという雑誌の方向に合わせて、従来より構想していた前払費用に関する問題点とその整理に取り掛かった。この成果は産業経理第 81 巻第 2 号「前払費用に関する一考察」と題する論文にまとめられている。</p> <p>さらにそこで取り上げきれなかった論点について、『千葉商科大学論叢』に第 59 巻第 3 号に、「収益費用アプローチにおける資産の内容に関する一考察」にまとめることができた。</p> <p>予想外の進展となったが、3本の成果物にまとめることができ、充実した一年となった。なお、『産業経理』『千葉商科大学論叢』にまとめられた論文にはさらなる研究が必要であり、今後数年はこの線で研究を進める予定である。</p> <p>教育的な側面では、梶岡源一郎先生編著の『図解でナットク！会計入門』第 3 版（中央経済社）を出版できた。</p> <p>また、簿記の初学者向けに、簿記処理の基本とその裏付けとなる理論を解説した『エッセンス簿記会計第 1 8 版』（森山書店）を出すことができた。本書はこここのところ毎年改訂されている共著である。</p> <p>このほか、実教出版から『日商簿記ゼミ商業簿記 2 級教本』『日商簿記ゼミ商業簿記 2 級問題演習』（共に共著）も 2022 年 4 月に出版されているがこれについては次年度の実績にカウントしたい。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】</p> <p>なし</p> <p>【著書・論文（査読なし）】</p> <p>学会報告書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本簿記学会簿記理論研究部会最終報告『AI 時代のコンピュータ会計と簿記』53-66 頁。（全 130 頁） <p>論文</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単著「前払費用に関する一考察」『産業経理』第 81 巻第 2 号（2021）産業経理協会、31-40 頁。 ・単著「収益費用アプローチにおける資産の内容に関する一考察」『千葉商科大学論叢』第 59 巻第 3 号（2022）、79-92 頁。 <p>著書</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梶岡源一郎編著 共著 『図解でナットク！会計入門』第 3 版（中央経済社）、（2022）、23-28 頁（第 1 部 会計について知ろう！ 4 値引きセールをしてもお店は儲かるのか？）、99-130 頁（第 2 部 会社の健康診断表と成績表を詳しく知ろう！ 4 会社の成績表-損益計算書を詳しく知ろう！） 					

・新田忠誓ほか著 共著 『エッセンス簿記会計』第18版（森山書店）、(2022)、62-72頁（第5章商品の購入・販売活動の記録）、98-116頁（第7章販売活動のバリエーション）。117-133頁（第8章掛取引の記録と資金の管理）

【学会発表等】

・日本簿記学会第37回全国大会における学会報告（2021年8月28日）

3. 主な経費

統計分析ソフトを購入し、活用に向けて準備したほか、書籍を購入して論文執筆に活用した。

4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）

なし。